

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

9

月号

2018年9月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

おとたの
岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し 作：音楽総監督 平光 保

すばらしい「ぞうれっしゃ」に感謝!

作詞者の 清水 則雄先生からのご寄稿です

「岐阜をウィーンのような音楽の都にしたい。」そんな素適な思いを持った皆様の「ぞうれっしゃ」演奏に参加できましたこと、大変嬉しく思っています。

合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」は1986年に創作して以来、私達が想像も出来なかったほどの勢いで全国に広がり、歌い続けられています。

私はその作詞・構成を担当させていただいたおかげで、全国各地から「ぞうれっしゃ」演奏会のご案内をいただきます。そんな折に私はその合唱団の練習やゲネに参加できれば、一緒に歌わせていただきたいとお願いすることがあり、北は北海道から南は九州・沖縄まで、いくつかの合唱団の演奏に参加させていただきました。

今回、ウィーン岐阜合唱団の定演で「ぞうれっしゃが」が歌われると知ったとき、一緒に歌いたいという気持ちがあったのですが、ウィーン岐阜合唱団はレベルが高いので、足をひっぱってしまうのではないかと、ためらっていました。しかしそんなとき、なんと平光先生から「よかったらご一緒に」とお誘いがあったのです。

私は、わくわくする思いで、長森コミュニティセンターの練習会場に向かいました。そしてそこで平光先生の合唱指導に出会い、すっかり平光ファンになってしまいました。

先生は私が詞に込めた思い、それを実に的確に指導されるのです。「このところの気持ちを大切に」「ここが一番大切な思いをあらわしているところです」・・・先生の言葉に「そうなんです」「そのとおりです」と私は心で叫んでいました。そしてその思いを全身で表現される指揮に感動してしまいました。何度も「ぞうれっしゃ」を歌ってきましたが、今回はほんとうに心に残る演奏参加になりました、ありがとうございます。

思えば、私達がぞうれっしゃ創作の取り組んだのは、

恵まれた時期でした。今はもうお亡くなりになった当時の動物園長の北王英一先生や、象の飼育係だった浅井力三さんもご存命で、お会いして直接お話を聞くことができました。浅井さんとは動物園の獣舎の前のベンチに座って、ゆっくりと当時の様子や思いをお聞きしました。動物園に象をゆずった木下サーカスの団長さんや東京の子ども議会の代表の一人で名古屋に象を貸して下さいとお願いに来た、厚田さんにもお会いすることが出来ました。

そうした人たちの想いを受けとめるたびに、この人達の想いをどう詩にしてつたえたらいいのか、悶々とした日々でしたが、お会いした人々から受けた感動が私の詩作を後押ししてくれました。

「ぞうれっしゃがやってきた」の絵本との出会い、その作者、小出隆司先生との出会い、それが無かったら、この合唱構成は出来ませんでした。前述の北王園長さんや浅井さん、その他の関係する人たちとのつながりも小出先生のお力添えで出来たことでした。

その小出先生と一緒に舞台に立てたのも大きな喜びでした。

そしてもう一つの楽しみは、伴真由子さんにお会い出来たこと、伴さんには以前何度か象使いの娘さんのソロをおやりになっているときにお会いしていますが、今まで数知れず聞いた「ぞうれっしゃ」の中でも、伴さんの「象使いの娘」のソロほど素適なものはありません。その伴さんのソロもさることながら、ウィーン岐阜合唱団、ウィーン岐阜管弦楽団、ながら児童合唱団の子ども達、井上先生の園長さん、こんな贅沢な、こんな素適な「ぞうれっしゃ」に参加させていただいたことを心より感謝し、ウィーン岐阜合唱団、ウィーン岐阜管弦楽団の益々の発展、ご活躍をお祈りいたします。

心一つに、声一つに歌う喜び

大垣支部 インспекター 河田 尚美

みなさん、「ぞうれっしゃ」は大人も子供も“心一つ”にして、喜びを感じて歌えましたか？

私は今回、歌い手と会場のお客様が一体となった感動を覚えました！『ながら児童合唱団』の歌と踊りが素晴らしかったのは勿論ですが、大人の合唱も子供達とそう違和感無く、明るく表現豊かなものだったのだと思います。一曲目から自然に手拍子が…これは8年前の前回には無かったことです。熱唱されたソリストの井上先生、真由子先生だけでなく、全曲を通してこの曲の良さを、メッセージを伝えたいという皆の心と、その思いを込めた歌声が一つになって、きっと歌う喜びあふれる一体感のある舞台になったのだと思います。

技術面では、「大人も表情が良かった」という声を何人かから聞き、表情が固かったという前回の反省が生かされた！と手応えを感じました。その反面、子供達に比べるとやはり大人の合唱は発音がモヤッとした感じだったという指摘もありました。日本語の歌の場合、特に言葉を大切に、歌詞が聞き取れるよう大事な言葉の頭の子音を飛ばすように、といつも先生方から指導を受けていることですが、まだまだ課題だなあと痛感しました。

次に、演出上の裏話を一。前回も真由子先生から演出の手伝いを頼まれ、その時に前々回のウィーンの演奏を含め、四つの異なる「ぞうれっしゃ」のビデオやCDを何度も見たり聴いたりして、照明や効果音、動きなどを考えました。その中で実話らしさを出すため「東山」という言葉を加えたり、流れが分かりやすいよう「雪よふるな」の前に園長さんのセリフを追加したり、セミの声や玉音放送を入れたり、と工夫しました。効果音も色々聞いて選び、時計とにらめっこでタイミングを決定。例えば空襲の音は「動物を殺せ」の頭から20秒後にだんだん小さくしてセリフに少しかぶってOFFとか、汽笛の音も今まで色んなパターンがあったので、これがベストと思われる位置で3回入れたり…。照明は、今回は市民会館の都合で前回ほど凝ったことはできませんでしたが、スポットライトは舞台監督の一人近藤さんをお願いして、なんとか体裁を整えることができました。そして動き、これは前回より一番進化したと思います。歌声に感情を込めるため全員で拳を握ったり、大人も楽し

気に体を揺らして歌ったり。本番では私達と一緒に体を揺すっているお客様もいました！いつもは直立不動で歌っている120人程がリズム良く合わせるのは難しかったですね。でも心一つにしてできました!!少しでもより良くしようと、先生方と大人と子供と皆で頑張っ作り上げた舞台。「ぞうれっしゃ」の歌詞の通りですね！

さて、次は「第九」です！新たなスタートです!!初めての方も○年目の方も、それぞれ自分の目標をもって、更に上を目指しましょう。

第九は何度歌っても感動する、しかもまた次の課題が見えてくる難しい曲です。第九に限らず、とにかく楽譜に先生の指示を、大事なことを書き込みましょう。そして、練習を録音しましょう。書くだけではなく先生方の注意を含めて自分の声を録音し、繰り返し聴いて歌って体に入れることです。特に第九のドイツ語の発音やピッチの高い発声は、練習時の指導を録音しなければ、なかなか身につけません。そして聴くこと。自分の録音した声を、隣の人の声を、他パートの声を、ピアノの音を。他のパートが練習している時や誰かが前で話している時も「聴こう」という意識を持つことが「聴いて歌う力」に結び付くと思います。何年目でもこれは同じように大切だと思います。

いくら素晴らしい曲でも楽譜があるだけでは感動も何も起こりません。人が演奏してこそ、歌ってこそ、その曲に命が宿ります。一人一人の声は違いますが、その違いを生かしつつ、経験も年齢も関係なく、個人が全体を考えてそれぞれの力や心を合わせて“一つ”を目指すのが合唱の良さだと思います。そこに喜びがあると思います。次の第九に向けて一人一人が自分の目標を持ち、また協調性と向上心を持って取り組み、更に合唱団のレベル

ルアップを目指しましょう！

来年は、年二回の演奏会の他に、団として参加する一大イベント『飛騨高山千人の第九』が待っています。私達の歌声で楽譜に命を吹き込み、歌う喜びを“感動”として千人の仲間たちと共有できるよう、一丸となって頑張らしましょう!!

「象列車さん！感動あいが！！ また逢う日まで」

大垣支部 アルト 古田 千恵子

幼いころから引っ込み思案で歌は下手だけど、歌が・音楽が大好きで数年前からどこかの合唱団等で歌える場所を探しておりました。今年こそは行動をおこさなくちゃ・・・と、ホームページや広報誌等で探していたところ、自宅と会社の近くで定期的な練習会や演奏会を開催されている合唱団を見つけました。思い切って事務局の方に問い合わせたところ、見学も良いよ。と快諾いただきました。そこで大垣支部の練習会場に足を運びました。何分一人で行くのはちょっと勇気がいりましたが、先生や団員の方々の温かい心遣いに和みました。

ちょうど7月末の演奏会で歌う曲の練習をされており、素敵な曲でしたので、即、楽譜を購入し皆さんが歌われている所を目で追っていました。歌詞も曲も歌も素敵すぎて目の前に映像が浮かび、だんだん涙が溢れ楽譜が読めなくなりました。「感動」の第一波でした。この歌を歌ってみたい、何とか歌えるようになりたいと思い演奏会への参加を決めました。

毎週の練習場にも参加し、練習を重ねてきましたが、①～⑩番まで全曲暗譜がなかなか出来なくて・・・。

また「月曜から夜更かし」というテレビ番組で全国

的にも知られるところとなった「和歌山県人は、ざ・ち・づ・ぜ・ぞ」の発音が苦手で、全て、「だ・じ・ず・で・ど」というふうに通じられるそうです。私も和歌山県人なので大丈夫かなあ？

だけど“ぞうれっしゃ”を歌うことが出来たら、発音が少しは治るかもしれないなあ・・・。本番まで後少し！ プレスの場所よく間違えるなあ！等、色々不安になりました。そこで、思い切って先生やパートリーダーの方々に相談してみました。私にとって参考になる色々なアドバイスを頂きました。お陰様で何とか本番に臨むことが出来たように思います。

定期演奏会では真由子先生や井上園長の歌、子供達の歌とダンス、生オケ演奏にも心奪われ、感激の連続で声は震えましたが、ラストは笑顔で手を振ることが出来ました。皆で作り上げる楽しさ、大変さ、心に沁みました。暫らく忘れていた気持ちが蘇り、心がほっこりした気持ちになりました。今後も毎週末の練習会がワクワクした気持ちで、ちょっと楽しみになりました。

スタッフの皆様、伴奏をして下さった先生、諸先生方ありがとうございました。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

3 世代、共に歌う平和の歌 ソプラノ 浅野 啓子

音楽劇「ぞうれっしゃがやってきた」を歌う機会が与えられ、感謝しています。いつもの演奏会とは違い、実話をもとにした物語で、そのストーリーに入り込みました。特に子供たちの生き生きとした歌とダンスの共演は楽しく感動にあふれるものでした。70数年前にはこんな子供たちも命の危険にさらされ、飢えや悲しみの中にいたのだと思うと。そして今、子供たちの笑顔に出会うことが出来る幸せを思うと、涙があふれてきました。この平和を継続して、次の世代に渡す責任があるのですよね。一緒に平和のうたを歌った経験が子供たちの中に残ってくれたらと思います。「子どもたちよ、いつまでもわすれないでほしい」です。

人口の80%が戦争を知らない世代になり、戦争とはどんなものなのか、映画やアニメを見てもなかなか現実味がわからないものです。そんな中、自分の国の利益を守るために武力行使も辞さないといった考え方や自分の国だけでなく同盟国への攻撃にも派兵できる集団的自衛権の容認やら物騒な状況が見られます。国を守るということは国民を守ることではないということが、戦争の歴史を見るとよくわかります。「動物の命を大事にできないような国は、人間も大事に扱わない」と言っている人がいますが、本当にそうだと思います。動物の命を守らない国は国民、特に弱い立場にある国民は決して守らないでしょう。人を生産性があるとか、ないとかで価値判断するような国会議員まで居るとは恐ろしいことです。そして戦争が始まってしまった時には私たちが「動物を殺せ」と叫ぶことになる、加害者にもなるということです。『動物を殺せ』と『悲しみの日』は心が痛くなる歌でした。動物を殺す役に当たったメンバーもさぞかし心が痛んだことでしょう。こうしてストーリーを自分たちで作りに上げることによって、平和への思いが深くなっていきました。音楽を自由に楽しむ事が出来るこの平和をまもっていかなければと、改めて思います。

第9回ヨーロッパ 音楽友好の旅

DVDを鑑賞して

田丸且行先生からのご寄稿です。

先の機関紙や参加者の方々から既に今回の旅が大成功、盛会だったと訊いていたので、その実感したいものだとの期待をもって一気に見た。

第一印象はリアニア大使の言葉である安部首相の訪問とは又違った大きな感動をもたらすものだったと言う言葉が脳裏に浮かんだ。

普通は大使は官僚機構に属するものだから安部首相と比較して感想を述べたりするものではない。よほど大使ご本人や取り巻き、会場にいた様々の方々の発散される空気が感動ものだったのだろう。

僕もスタンディングオーバーションの姿を見て、これは日本の外務省の河野太郎レベルの方が参加された方々に感謝状を出すべきレベルのイベントだったと思った。

元々杉原千畝氏の功績もあり、当然親日感情はあったのだろうが、例えば音楽的な意味での感動ならば心の琴線に触れても普通は涙、拍手レベルで終わるものだ。それがスタンディングオーバーションに至るには、それらにプラスして琴線よりもっと奥深い背骨を震わせ脳天に突き抜けるような驚愕が付与されなければならない。想像だが、まずオリエントという遠来から駆け付けてくれた謝意、熱意や日本の国力・日本人の限りない可能性に対する素直な驚き善意も絡んでいようが、何より平光氏や伴氏や43名の音楽

する姿、その真摯な態度、音楽的レベルの高さ、発散する人間的魅力、受容能力の高さ等、多岐にあたるがそうしたものが相乗作用をもってある意味で現地の方々の度肝を抜いたのではなからうか。

自分たちよりも音楽的に先進国だと思わせるものがあり生唾を呑みながら聴いていたのではなからうか。

映像からの印象だが、現地のオケの方々の弓の動きや演奏する姿の中には日本ではプロとは言えないレベルの方も散見された。また、録画技術も例えばNHKで耳馴染んだレベルではない箇所もあった。ピアノのメンテも。これは唯我独尊的な見方もあるかもわからないが、普段見慣れた方々が多くつい鼻負気味な見方をするのかも。僕たちはいつの間にか凄い文化的遺産の仲で暮らしているのかもわからない。改めて普段の音楽活動を距離をおいて眺める必要があるのかも知れない。客観的な視線から見つめなおしてみたいものだ。

現地の方々とそんなレベルの会話をし、意気投合すれば友好の旅は新たにな局面へと開かれるかも知れない。改めてウィーン岐阜のたゆまない普段の活動のもたらすものに目を向けていきたい。日本人は海外の成功事例を逆輸入でその素晴らしいさを実感する事例が多い。

うまくこのDVDを活用してほしいな……。

初めての乾杯

2ヶ月ほど前に次男から「3月24日、一緒に行ってほしいところがある」と頼まれました。次男20歳の誕生日の日のことです。そして約束していた日、次男と訪れた場所は、一昨年7月に亡くなった私の父、次男の祖父の眠るお墓です。次男が20歳になって最初にやりたかったことは「じいちやんとビールで乾杯」です。次男には、お酒を飲んでいる父の姿が幸せそうに映り、いつの日かその時間を共にしたいと思ったのでしょうか。

ガンが見つかり、二度の手術と抗がん剤治療。つらそうな父を見舞った帰りに「一緒にお酒を飲める日まで頑張つてよ、じいちやん」とつぶやいた次男。私もその日が来ることを願いましたが、かないませんでした。お墓に向かう途中、次男が缶ビール2本買い、1本は墓前に、もう1本は自分が持ち「乾杯」と言って一口。「飲みやすいかも」とは、父に似てお酒好きになる予感がします。

「今日のビールは最高おいしいな」と、喜んでいる父の姿が目には浮かびました。

次男が今も父を忘れず思っていてくれることに、嬉しい気持ちで一杯になりました。次男君、素直に育ってくれてありがとう。そして、20歳の誕生日、おめでとう。h30.04.11 記 T.tomoko

ベートーヴェン 交響曲第九番

(原詩発音・語訳)

P.10-D(合唱部)

喜びよ
Freude!
fróyða
フロイデ

おまえの 魔力は 結びあわせ ふたたび ものを (この)世のならわしが きびしく
Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng
dai:nə tsaubər bīndən ví:dər vas di: mó:ðə ʃtrɛŋ
ダイネ ツァウバ ーレン ビンデン ヴァーデス ヴァス テー モーデ シュトレング

分けへだてた すべての となる 兄弟
geteilt, alle Menschen werden Brüder,
gətáit alə mɛnʃən vé:rðən brý:dər
ゲタイルト アーレ メンシェン ヴェーレン ブリュエーデン

ところにおまえの やさしい 翼の やすらう
wo dein sanfter Flügel weit.
vo: dain zantfər flý:ɡəl ví:lt
ヴォ ダイ ン ザンフテス フリュゲル ヴァイルト

P.13-E(合唱部)

(そうだ)ものは でも ただ 一つの 魂 自分のもと 呼びうる 上に (この)
Ja, wer auch nur eine Seele sein nennt auf dem
ja: vər aux nu:r ainə zé:lə zain nent auf ðəm
ヤー ヴェー アウホ ヌーア ー アイネ ゼーレ ザイン ネット アウフ デム

地 そして ものはそれが 一度も できなかった(そのものは)
Erdenrund! Und wer, s nie gekont der
é:rdənrunnt unt ve:rs ni: ɡəkɔnt der
エーレンラント ウント ヴェーレス ニー ゲコント デス

ひそかに 立ち去るがよい 泣きながら から この 仲間
stehle weinend sich aus diesem Bund.
ʃtéhle ví:nənt zɪç aus dí:zəm bʊnt
シュテレー ヴァイネント スィッチ アウス ディーゼム ブント

P.16-G(合唱部)

接吻を 与えた 自然はわれわれに(そして) ぶどうと (一人の) 友を
Küsse gab sie uns und Reben, einen Freund,
kýsə ɡa:p zi: uns unt ré:bən ainən frɔynt
キュッセ ガーブ ズィー ウンス ウント レーベン アイネン フロイント

試練を経た の 死 快楽は られた (その) 虫に
geprüft im Tod, Wollust ward dem Wurm
ɡɛprý:ft im to:t vólust vart ðəm vʊrm
ゲブリューフト イム トート ヴォルスト ヴァルト デム ヴルム

与え
gegeben
ɡeɡe:bən
ゲゲーベン

そして (あの) 光の天使ケープは 立つ の前に 神 (の前に) (神)
Und der Cherub steht vor Gott, vor Gott. (くりかえし)
unt ðər ké:rʊp ʃtɛt fo:r ɡɔt fo:r ɡɔt
ウント デス ケールツプ シュテート フォー ゴット フォー ゴット

P.21-I(合唱部)

進め 兄弟たちよ きみたちの 道を 勇ましく ように(一人の) 英雄が に向かって 勝利に
Laufet! Brüder eure Bahn, freudig. wie ein Held zum Siegen!
láufət brý:dər ɔyrə ba:n fróyðɪç ví: ain helt tsum zí:ɡən
ラウフェット ブリュエーデル オイレ バアーン フロイディッヒ ヴィー アイン ヘルト ツム ズィーゲン

P.26-M(合唱部)

喜びよ 美しい 神々の火花よ 娘よ
Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus
fróyða ʃp:ner ɡøetər'fʊŋkən tɔxtər aus
フロイデ シューネーレン ゲッターフンケン トホテス アウス

至高の島エリージウムわれわれは 踏み入る 火のように酔いしれて
Elysium! Wir betreten feuertrunken, H9mm-
ely:zyʊm ví:r bæ-tré:tən fɔyərtrʊŋkən hí:m-
エリージウム ヴィーア ベトレーテン フォイエルトレンケン ヒム

崇高なところ おまえの 聖所へ
Iische, dein Heiligtum! 以下は最初の歌詞と同じ
lí:ʃə dain hãilíçtʊm
リッシュェ ダイ ン ハイリヒトウム

P.30 (合唱部)

抱き 一 あえ 数百万の人びとよ この 接吻を(この) 全 世界へ
Seid umschlungen, Millionen! Diesen Kuss der ganzen Welt
zait úmʃluŋən mílió:nən dí:zən kus ðər ɡantsən velt
サイト ウムシュルンゲン ミリオーネン ディーゼン クス テス ガンツェン ヴェルト

P.31-N(合唱部)

兄弟よ のかなたに 大空 にちがいない(一人の) 愛する 父が 住んでいる
Brüder! überm Sternenzelt mu,ß ein lieber Vater wohnen.
brý:dər ý:bərm ʃtɛrnəntszelt mʊs ain lí:bər fátər vo:nən
ブリュエーデン イューバーム シュテレンネンツェルト ムス アイ リーヘーレン ファーテス ヴォーネン

P.33 (合唱部)

きみたちは ひざまずくか 数百万のひとびとよ 氣付くか(おまえは) (あの) 創造主に
Ihr. stürz nieder, Millionen? Ahnest du den Schöpfer,
i:r ʃtýrtst ní:dər mílió:nən á:nəst du: ðən ʃœpʃər
イーア シュトルツニエーデス ミリオーネン アーネスト トゥー デン シェップフェー

世界よ 求めよ 創造主をのかなたに 大空
Welt? Such' ihn überm Sternenzelt!
velt zu:x in ý:bərm ʃtɛrnəntszelt
ヴェルト ズーフ イン イューバーム シュテレンネンツェルト

P.34 (合唱部)

のかなたに 星 に違いない 彼は 住んでいる
Über Sternen mu,ß er wohnen.
ý:bər ʃtɛrnən mus ɛr vo:nən
イューバー シュテレンネン ムス エー ヴォーネン

《ベートーヴェン作詞》

おお、友よ、この音楽ではない。
もっとところよい、
もっと喜びに満ちた音楽を、
われわれはかなでよう。

《シラー詩》

喜びよ、美しい神々の火花よ、
至福の島エリージウムの娘よ、
われわれは火のように酔いしれて、
崇高なところ、おまえの聖所へ踏み入る。
おまえの魔力は世のならわしが
きびしく別けへだてたものを
ふたたび結び合わせ、
すべての人びとに
おまえのやさしい翼の
やすらうところに兄弟となる。
一人の友の友となる
大きな成功を得たものは、
やさしき妻をかち得たものは
地上にただ一つの魂でも
自分のもとと呼びうる者は、
その歓声をともしせよ。
そしてそれができなかった者は、
泣きながらひそかにこの仲間から立ち去るがよい。
すべてのものは
自然の乳房から喜びを飲む。
すべての善いものも、
すべての悪いものも、
自然のバラ色の道を辿ってゆく。
自然はわれわれに接吻を与え、
ぶどうと、死の試練を経た友を与えた。
快楽は虫に与えられた。
そして光の天使ケルプは神の前に立つ。
うれし気にひかりかがやく太陽が
壮麗な天界をわたるように、
兄弟たちよ、
英雄が勝利に向ってすすむように、
きみたちの道を喜ばしく進め。

数百万の人びとよ、抱き合え。
この接吻を、全世界へ。
天空のあなたに愛する父が
住んでいるにちがいない。
きみたちはひざまずくか、
数百万のひとびとよ。
創造主に気付くか、世界よ。
天空のあなたに創造主を求めよ。
星のあなたに彼は住んでいるに違いない。
(東京労音解説編纂会訳)

9～11月練習予定

練習時間は 18:45～20:45 です。(18:30 には集合しましょう)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
9月 6日(木)	長森コミュニティーセンター	9月 7日(金)	大垣市南地区センター
9月 13日(木)	長森コミュニティーセンター	9月 14日(金)	大垣市南地区センター
9月 20日(木)	長森コミュニティーセンター	9月 21日(金)	大垣市南地区センター
9月 27日(木)	長森コミュニティーセンター	9月 28日(金)	大垣市南地区センター
10月 4日(木)	長森コミュニティーセンター	10月 5日(金)	大垣市南地区センター
10月 11日(木)	長森コミュニティーセンター	10月 12日(金)	大垣市南地区センター
10月 18日(木)	長森コミュニティーセンター	10月 19日(金)	大垣市南地区センター
10月 25日(木)	長森コミュニティーセンター	10月 26日(金)	大垣市南地区センター
11月 1日(木)	長森コミュニティーセンター	11月 2日(金)	大垣市南地区センター
11月 8日(木)	北部コミュニティーセンター	11月 9日(金)	大垣市南地区センター
11月 15日(木)	北部コミュニティーセンター	11月 16日(金)	大垣市南地区センター
11月 22日(木)	長森コミュニティーセンター	11月 23日(祭)	大垣市南地区センター
11月 29日(木)	長森コミュニティーセンター	11月 30日(金)	大垣市南地区センター

ウィーン岐阜2018紅葉ツアー
間もなく募集開始!!

飛騨高山千人の第九!!へ向けて
飛騨高山と錦秋の上高地



1 期 間:平成30年10月28日(日)～29日(月)

2 行 程:<1日目> 大垣・岐阜発 8:30～10:30 高山着～自由散策・昼食～古い町並みで地元合唱団との音楽交流会～本陣平野屋別館泊(音楽関係者も交えて懇親会)
<2日目> 高山発 9:00～11:00 上高地散策 15:00 発～19:00 岐阜着～19:30 大垣着

3 会 費: 28,000 円程度を予定

Point1・地元合唱団等と音楽交流会: 会場は、古い町並みの「まちの博物館」展示室(昔の蔵)

Point2・宮川河畔で宿泊: 宿泊は、宮川沿いの老舗旅館で。男性は屋上の露天風呂、女性は蔵の温泉。
古い町並み、陣屋前朝市は歩いて1分、朝ご飯前に朝市も OK!!

Point3・紅葉の上高地: 2日目は、上高地へ。滞在時間4時間を予定。大正池～田代池～河童橋、
または河童橋～明神池～河童橋の散策